

戦略タスクフォースリーダー養成プログラム構想

平成 26 年 12 月 19 日

主催 東京大学政策ビジョン研究センター

共催 公益財産法人日本生産性本部(予定)

(注) 本資料は現時点での構想を示したもので、実際のプログラム内容、実施形態等は変更することがあります。

1. 目的

企業におけるオープン&クローズ戦略などの実践において、企業の複数部門からなる戦略タスクフォースを組織・運営して、経営トップに提言をおこなう「戦略タスクフォースリーダー」の養成を目的とします。

ここでいうタスクフォースリーダーとは、経営トップまたは対象とする事業部門長の指示のもとに設置する全社戦略または事業戦略実行のためのタスクフォースのリーダー、または異分野における新事業開発、事業の新興国などへの海外進出、研究開発成果の事業化、などを試みようとする全社横断型プロジェクトのリーダー、さらにはタスクフォースを起案し、必要な知識をメンバーに提供し、議論をリードしトップに提言を行うチームのリーダーなどを指します。

このような戦略タスクフォースリーダーの候補者としては、大企業の全社企画部門や事業部門におけるミドルマネジャー（役員クラスの参謀役）、研究開発・技術開発リーダークラス、中小企業の社長または社長後継者などを想定していますが部門や技術系か事務系かは問いません（知財部門を対象とした知財管理の研修ではありません）。

(A) タスクフォースを指揮するに当たり戦略性の高い知的資産経営を導入したい

(B) 自社事業を高収益事業にするために知的資産経営を活用したい

(C) 自社の技術資産を知的資産経営によって最大限に活用したい。

などの意思を持つ社員が候補者となると考えています（企業ではなく自治体や公的研究機関、ファンディングエイジェンシーなどでも戦略タスクフォースリーダーが必要になる場面があります）

本プログラムの養成対象者はこれらの候補者が該当すると考えています。

2. 運営組織

東京大学政策ビジョン研究センターに戦略タスクフォースリーダー養成プログラム事務局をおき、複数大学院の教員によるプログラムを組織します。プログラムの実施に関しては公益財産法人日本生産性本部と一部の事業を共同で実施する予定です。

また今後のプログラムの新規開発・改廃等は教員とアドバイザリーボードをメンバーとする運営委員会にて決定いたします。

アドバイザリーボードのメンバー（予定）は以下の通りです

柳生一史（味の素株式会社 知的財産部長／上席理事）

長澤健一（キヤノン株式会社 取締役 知的財産法務本部本部長）

戸田裕二（株式会社日立製作所 知的財産権本部 副本部長）

江村克己（日本電気株式会社 執行役員）

3. プログラムの概要と構成

プログラムの内容としては、オープン&クローズ戦略、イノベーション戦略、経営戦略の基礎、デザインドリブンイノベーション、標準を利用したビジネス戦略、パブリックファンディングマネジメントの考え方と事例を理解する、タスクフォースの企画方法や運営の要点を習得する、タスクフォースリーダーとしてのコンセプトづくりや指導法などを身につける、などが主眼となっています。これらを標準講義科目、ケース討論モジュール、そして共通モジュールの3つのモジュールあわせて20コマ（1コマ2時間）でカバーします。

つまりこれらの知識を講義で理解することだけでなく、ケース演習や討論、ロールプレーや実際に課題に取り組んでワークショップを行うなど多様な方法で、知識を知っているから腹に落ちて分かったというレベルにまで引き上げることができます。そして経営への戦略提案実践特別モジュール（プラス3コマ）では、実際に経営陣に対して、学んだ一連の知識を生かして自社の課題を解決する戦略提案を、インストラクター教員と一緒に議論しながら取り組むことで、より実践に近づけることを試みます。

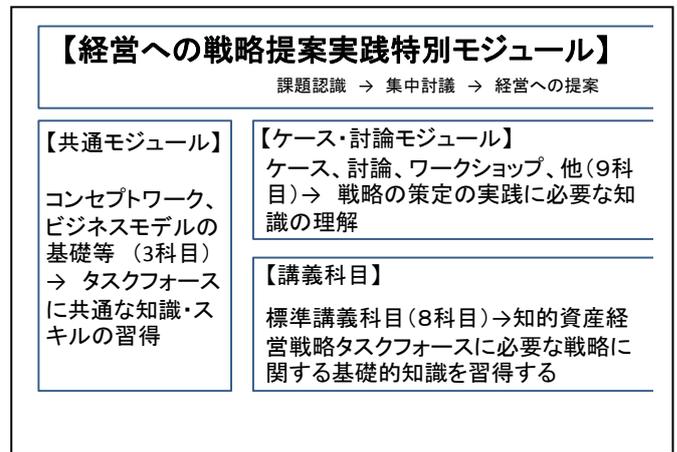
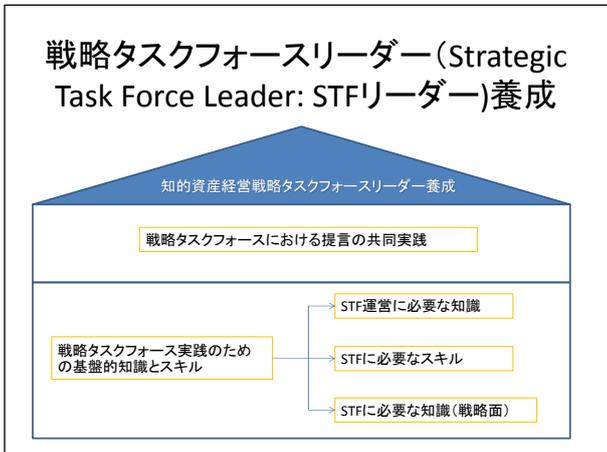


図1 戦略タスクフォースリーダーに求められるもの 図2 タスクフォースリーダー養成プログラムの構造
※フォローアップミーティングを除く

3. プログラム内容

■ 土曜開催A日程 ① 10時～17時 東京大学本郷キャンパス 伊藤国際学術研究センター(予定)

①ガイダンスと自己紹介、課題発表(午前)

課題発表



【インストラクター】

渡部俊也（東京大学政策ビジョン研究センター教授）

【内容】 本プログラムの目的と概要について解説し、受講生の自己紹介および課題発表を行う

②ウオームアップセッション「ビジネスエコシステムを理解する」(午後)

ケース討論

【インストラクター】

立本博文 (筑波大学大学院ビジネス科学研究科准教授)



【内容】

ビジネスエコシステムとは何か、何故注目されているのかについて、インテルのケースをもとにグループ討議方式で理解を深めていく。全体のプログラムの動機付けや焦点の形成などを狙いとしており、戦略タスクフォースプログラムのウオームアップセッションに位置付けられる。

【指導項目】

ビジネスエコシステムとは、ビジネスエコシステムの変遷、オープン&クローズ戦略とビジネスエコシステム、ネットワーク外部性、国際標準にみるビジネスエコシステム

③オープン&クローズ戦略 (午後)

講義

【講師】

小川紘一 (東京大学政策ビジョン研究センター客員研究員)



【内容】

世界の産業界が100年に一度ともいえるべき構造転換に直面している事実とその背景を、ソフトウェアリッチな産業界の興隆という視点から解きほぐすのが第一の狙い。第二の狙いは、製造業のグローバルイゼーション、ビジネス・エコシステム型のグローバル産業構造、新興国の興隆、などに象徴される21世紀の市場で、①これまでの常識が通用しなくなった事実、②先進国型製造業としての勝ちパターン再構築が必須となった事実、③再構築で中心的な役割を担うのがオープン&クローズの戦略思想であり、知財マネジメントであることを、歴史的な視点や内外の多様な事例から学び、第三に、これを自らの手で具体化できる軍師型人財の育成を目的とする。

【指導項目】

日本経済における製造業の位置付け、100年ぶりに起きたグローバル市場の産業構造転換と競争ルールの変化、およびその変化をもたらす技術体系の変貌と製品アーキテクチャーの転換、自然法則の産業化と論理体系の産業化の違い、ここから見た日本の製造業の現状と課題、企業人が自らの手で産業構造や競争ルールを変えるこ

とのできる時代の登場と、この経営環境の中のオープン&クローズ戦略思想の役割、ケーススタディ：オープン&クローズ戦略で再構築された内外企業の勝ちパターン、*欧米企業の事例、アジア企業の事例、日本企業の事例、*ICT/エレクトロニクス産業、自動車産業、部品・材料産業、グローバルなビジネス・エコシステムを介した市場支配の仕組み作りとこれを支える知財マネジメントの体系

【テキスト】 『オープン&クローズ戦略—日本企業再興の条件—』、小川絢一（翔泳社）2014年2月

④交流会 本郷伊藤国際ファカルティクラブ(予定)

【インストラクター】

渡部俊也（東京大学政策ビジョン研究センター教授）

里形玲子（株式会社ラゴム）



【内容】

次週からの受講生同士のディスカッションなどで必要になるコミュニケーションを十分にするためにお互いを理解することで、将来のクラス構成員のネットワーキングの基盤をつくる。また20コマにわたって高いモチベーションで学習を継続するための動機付けを様々な形で行っていく。

【指導項目】

動機付けインタビュー、場面に合わせたスピーチ、その他

■ 平日開催B日程① 18時30分～20時30分

「経営戦略の理解」

講義

ケース討論

【講師】

新宅純二郎（東京大学大学院経済学研究科教授）



【内容】

競争戦略論の基礎的なフレームワークと製造業のグローバル戦略、新興国企業との競争戦略についてケースと講義、討論によって理解を深める。特に製造業企業の生産現場の重要性やその評価を正確に行うことを基盤として、経営戦略の充実を適切に図っていくことの大切さを学ぶ。タスクフォースで実践を目的とするオープン&クローズ戦略等の基礎として位置付けられる。

【指導項目】

経営戦略とは、競争優位の実現と維持、業界の構造分析、差別化戦略と顧客価値、コストリーダーシップ戦略、顧客価値、競争ポジション、製品ライフサイクル、標準化戦略、新興国市場戦略

【テキスト】

新宅純二郎・妹尾堅一郎・小川紘一・立本博文・高梨千賀子(共著)『ビジネスモデルイノベーション』白桃書房, 2011年. 網倉久永・新宅純二郎(共著)『経営戦略入門』日本経済新聞出版社, 2011年.

■ 平日開催B日程② 18時30分～20時30分

「イノベーション戦略と新興国」

講義

【講師】

元橋一之 (東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻教授)



【内容】

製造業企業を中心とした日本企業の競争戦略を考えるうえで重要な世界的な潮流である「サイエンス経済」に対する理解を深める。企業の知的財産経営について考えるうえで、モノづくりからソリューションビジネスへの流れ、新興国の台頭による世界経済の変貌に対応したイノベーション戦略など様々なイノベーション戦略に関する基礎的な理解を深める

【指導項目】

産業競争力の考え方と日本企業の動向、工業経済の終焉とサイエンス経済の台頭：競争力の基礎となる経済モデルの変化、新興国の台頭によって必要となるレバレッジ戦略、リバースイノベーション戦略、日本的イノベーションシステムの変貌と今後のあり方、産業競争力を再生するための、国、企業、個人それぞれのあり方

【テキスト】 『グローバル経営戦略』元橋一之(東京大学出版会)2013年3月

■ 平日開催B日程③ 18時30分～20時30分

「イノベーションエコシステムの形成と活用」

講義

【講師】

福嶋 路 (東北大学大学院経済学研究科教授)



【内容】

知財を生み出しその活用を実現の確率を上げるためには、個々の企業の努力だけではなく、企業を取り囲むエコシステムまで視野を広げる必要がある。本講義においては、知財の活用を促進するためのエコシステムの意義、特徴、およびその形成について学ぶ。エコシステムのなかには、大企業や中小企業、ベンチャー、自治体、大学など多様なプレーヤーが含まれるが、それぞれが果たすべき役割や連携の在り方、具体的には中小企

業・ベンチャー企業との連携、またそれを促進する社会的仕組みとは何かについて考えていく。また、それを実現するためには、どのような地域資源にアクセスし、どのように発掘・活用していけばよいのかを考えていく。

【指導項目】

エコシステムとは何か、知財活用におけるエコシステムの役割、エコシステムの中のプレーヤーとその役割、エコシステム内のプレーヤー間の連携、事例紹介

【テキスト】

福嶋路『ハイテク・クラスターとローカル・イニシアティブ：テキサス州オースティンの奇跡はなぜ起こったのか』東北大学出版会、2013.

西澤昭夫, 忽那憲治, 樋原伸彦, 佐分利応貴, 若林直樹『ハイテク産業を創る地域エコシステム』有斐閣、2012.
A.サクセニアン『現代の二都物語』日経 BP 社、2009.

■ 土曜開催A日程（本郷キャンパス）②

講義

演習

共通モジュール「コンセプトワークとビジネスモデルの定石」 3コマ

【共通モジュールインストラクター】

妹尾堅一郎（NPO 法人産学連携推進機構理事長）＋ 協力スタッフ



【内容】

戦略タスクフォースにおいて、有効かつ効果的・効率的な活動を行うための、ミッションの共有、コミットメント、共通の知識、共通の創発思考（コンセプト）、ビジネスモデルの知識と理解、などタスクフォースマネジメントにおける共通の概念と語彙を学ぶ。

【指導項目】

長期の産業生態系の変容を見通す、基本的ビジネスモデル群（と知財マネジメント）を理解する、創発思考と問題学・構想学、概念セットを活用した発想、概念セットを創発する発想

【テキスト】 未定

平日開催B日程④ 18時30分～20時30分

・「デザインドリブンイノベーション」

講義



【講師】 杉光一成（金沢工業大学大学院知的創造システム専攻教授）

【内容】

「デザイン」概念の変化とともに、デザインがイノベーションに強く関係するという考え方が増しつつある。ここではそのような先行研究等について紹介・検討するとともに、デザイン主導でイノベーションが起きたと考え

られている国内外の具体的事例とを検討しつつ、そのようなイノベーションを支える道具としてのツールおよび法制度についても言及し、デザイン・ドリブン・イノベーションについての理解を深める。

【指導項目】

デザインの定義、関連する先行文献・研究、デザイン・ドリブン・イノベーションとは、国内外の事例検討、デザイン・ドリブン・イノベーションの課題、デザイン・ドリブン・イノベーションのためのツール（デザイン思考、3Dプリンター、法制度等）

【テキスト】

アッターバック「デザイン・インスパイアード・イノベーション」（邦訳）2009年

ロベルト・ベルガンティ「デザイン・ドリブン・イノベーション」（邦訳）2012年

■ 平日開催B日程⑤ 18時30分～20時30分

・「イノベーションにおける国との付き合い方
戦略的な政府研究開発プロジェクトの実践」

講義

討論

【インストラクター】

渡部俊也（東京大学政策ビジョン研究センター教授）

高橋真木子（金沢工業大学虎ノ門大学院知的創造システム専攻教授）

ゲスト講師（経産省審議官クラス）

【内容】

政府研究開発プロジェクトへ参加して得られた成果を活用することによりイノベーションを促進することが可能である一方、政府研究開発プロジェクトにおいては企業資金による研究開発とは異なる制度や狙いがあるため、研究開発や知財マネジメントにおいても押領すべきことが多く存在する。オープン&クローズ戦略においてはオープン側に政府研究開発プロジェクトの成果を位置付けるなども考えられ、企業の新たな経営戦略実践に際してのタスクフォースの類型として、戦略的な政府研究開発プロジェクトの取り組みについて過去の事例や実証分析を通じて学んでいく。さらに新興国政府との関係構築などについても言及する。

【指導項目】

政府研究開発プロジェクトの類型としくみ、政府研究開発プロジェクトの狙い、科学技術政策の概要、バイ・ドール法、研究開発コンソシアムのマネジメント、技術研究開発組合制度、産学連携

■ 平日開催B日程⑥ 18時30分～20時30分

・「国際標準における事業戦略（大企業と中小企業の事例、欧州と新興国の標準）」

講義

ケース討論

【インストラクター】 未定+吉岡（小林）徹（サブインストラクター） + ゲスト講師（企業ケース）

【内容】

ビジネスエコシステムとしての標準を戦略的に活用して自社の競争力強化に結び付けている企業の事例を学ぶ。ビジネスエコシステムとしての標準の活用も一通りではなく多様性があり、経営資源の乏しい中小企業においても有効な活用ができていた事例もある。大企業や中小企業、欧米企業のいくつかのケースをもとに、戦略タスクフォースで提言する事業戦略が標準を活用する際においては、どのようなポイントが重要なのか、それを実践するうえでどのようなマネジメントが必要になるのかを理解する。

【指導項目】

国際標準、国際標準機関、標準策定プロセス、新興国の標準制度、測定方法の標準、標準における必須特許、パテントプール、ホールドアップ問題、標準必須特許のマネジメント、認証、事例で学ぶ戦略的な標準の活用と位置取り

【テキスト】

経産省 国際標準テキスト

■ 土曜開催A日程 ③

・「オープン&クローズ知財マネジメント」(午前)

講義

ケース演習

【インストラクター】

渡部俊也 (東京大学政策ビジョン研究センター教授)



【内容】

戦略タスクフォースが目指すオープン&クローズ戦略の実行にあたっては、技術資産や知財を2つに分割して、それぞれ異なる知財マネジメントによってそれぞれの目的に沿うように運用していくことが求められる。この時の知財マネジメントとは知財の出願権利化、秘匿、公開の3要素に加えて、これらを用いて他者や場合によっては不特定コミュニティとの関係性を制御するために行われる契約や規約、宣言などの契約マネジメントが重要である。ここでは特に最近発達してきたオープンな知財マネジメントについて、事例を交えながら具体的な運用方法などを理解する。パテントコモنزの契約を題材にケース討論を行って理解を深める。

【指導項目】

知財マネジメントの3要素、時系列のマネジメント、技術の不確実性と知財マネジメント、知財を用いたアライアンス戦略、パテントプール、オープンソースソフトウェア、知財コモنز

【テキスト】 渡部俊也「イノベーターの知財マネジメント」白桃書房(2012)

・戦略データの分析演習(午後)

【インストラクター】 未定 (サブインストラクター 平井裕理 (東京大学政策ビジョン研究センター))

【内容】 オープン&クローズ戦略を代表とする戦略構築にあたっては、影響を与えようとするビジネスエコシステムに対して自社の経営資源がどのような位置づけにあるのか、そもそもどのようなビジネスエコシステムが既に形成されているのかなどの分析を行う必要がある。この際企業に関する膨大な公開データを最新の統計理論などを用いて分析できるかどうかは、戦略構築の有効性に対して大きな差異を生じる。ここでは特許等の知財データを、ネットワーク理論や様々な統計解析手法を用いることで、組織マネジメントと戦略構築に有効に活用する方法を学ぶ。あわせて自社の状況を定量的に把握するための、最新の理論を用いたアンケート調査の方法などについても学習する。

【指導項目】

特許等の統計解析、社会ネットワーク理論、知財データの収集方法、質問票調査の設計と解析、新興国知財データの収集方法、事例 (自動特許庁、自動裁判所、移動発明者の分析、デザイン活動の分析、他社牽制知財戦略、中国知財データの分析、その他)

・「アライアンス戦略の形成とその実践のための交渉マネジメント」

ロールプレー

【インストラクター】

二又俊文 (東京大学政策ビジョン研究センター客員研究員)



【内容】

自社の経営資源を補うためのアライアンスに際しては、相手の意向を無視して戦略立案を行っても現実性はない。特にオープン&クローズ戦略におけるオープン領域の組織間関係を適切なものとしていくためには、多様な組織間関係を制御し一つの目的に向かって機能するような契約が行われていることが多い。本モジュールでは、ライセンス契約における戦略的な含意を踏まえ、それを実現するための知財交渉のマネジメントを学ぶ。

具体的には交渉学の基本を確認した後、知財環境の変化のもとでの、新たな知財交渉の位置づけを確認する。学習は特許ライセンス交渉を素材とし、交渉準備段階と交渉推進段階に分け、フレームワークとフロー、遂行ステップと必要スキルを確認する。講義後半では模擬交渉をチーム対抗で行い、理論・実践サイクルで学習者自身による習得を促す。知財交渉の結果は、契約書にまとめる必要がある。特許ライセンス契約を素材とし、合意をどのように契約に落としこむか。多様なライセンス契約を確認し、契約マネジメントの総合的な理解と応用力を得る。

【指導項目】

組織間関係、戦略的アライアンス、戦略に沿った契約交渉方針、知財交渉のフレームワーク、フロー。準備項目と時間管理。交渉チーム構築。弁護士選定の方法。交渉シナリオの作成。BATNA。Term Sheet, MoU, 契約書

などの構成と契約ドラフティング。多様な契約（クロスライセンス契約、片務的ライセンス契約、共同開発契約、研究開発コンソシアム契約、パテントプール契約など）を学習する。

【テキスト】

参考書：ロジャーフィッシャー「ハーバード流交渉術」三笠書房、ダニーエーテル「交渉からビジネスは始まる」ダイヤモンド社

■ 平日開催B日程 ⑦ 18時30分～20時30分

・「タスクフォース組織マネジメント」

【インストラクター】

講義

討論

・犬塚篤（名古屋大学大学院経済学研究科准教授）



【内容】

多様なメンバーの意見をまとめ、経営との意思疎通を図ることの難しさから、一般的にはタスクフォースの成功確率は低くなる。しかし他方で多様なメンバーの貢献を有効に活用することで、タスクフォースのパフォーマンスは既存の組織による取り組みに比べて、非常に高いパフォーマンスを発揮する可能性がある。このような成果を得ようとするためには、タスクフォースリーダーはその役割や機能に対する正確な理解と、どのような問題を克服しなければならないのか、などのタスクフォース運営にまつわる知識とスキルを身に付けておく必要がある。さらにタスクフォースによる提案を求める経営役員層にも、タスクフォースを失敗させないためのいくつかの注意点が存在する。ここでは組織論の立場からタスクフォースのマネジメントの要諦について議論していく。

【指導項目】

戦略タスクフォースとは何か、最近のタスクフォースの事例、タスクフォースはどこまで研究されているのか、タスクフォースの構成メンバー、タスクフォースリーダーとは誰なのか、タスクフォースリーダーの育成の課題

【テキスト】

未定

■ 「合宿研修（1泊2日）」 東京近郊

課題発表

特別講演

【インストラクター】

各務茂夫（東京大学産学連携本部教授）
渡部俊也、里形玲子、他



【内容】

- ・ゲストを交えた座談会「タスクフォースの組織化と運営のポイント」
- ・ビジネスモデル提案発表討論会

■ 平日開催B日程 ⑧

演習



「ラップアップと標準コース修了式」

【インストラクター】 渡部俊也

【内容】

今までの振り返り、気づきの整理、実践のための課題と解決法、修了式

※ここまで全20コマ

■ フォローアップ研修 ①

演習

講義

【インストラクター】 渡部俊也

【内容】

およそ1年後に受講の効果の把握、動機付けのフォロー、受講プログラム期間中でカバーできなかった課題のフォローアップ、ネットワーキングの拡大、などの狙いでフォローアップミーティングを実施します（アルムナイネットワーキングイベントも併設予定）。またフォローアップ研修の後、派遣企業の方に収集データを分析した「戦略タスクフォースリーダー養成結果報告書（フィードバック報告書）」をお送りいたします。

■ 実践モジュール 3コマ

コンサルティング

経営への戦略提案特別モジュール

【インストラクター】

派遣元企業と事前に担当教員（リーダー教員＋副担当教員複数名）を調整して決定します

【内容】

・個別に企業のテーマを持ち込んでいただきます（秘密保持を締結）。
 最数回は役員等を交えたディスカッションセッションを実施します。
 実施日程は調整しますが、ガイダンスは5月～6月、討論は主に8月
 前後に実施予定。経営への提言は9月末などを標準としています。



具体的な流れは、一般コースの受講を進めていただきながら
 ①ヒアリング → ②討議 → ③経営への提案
 と進んでいただきます。

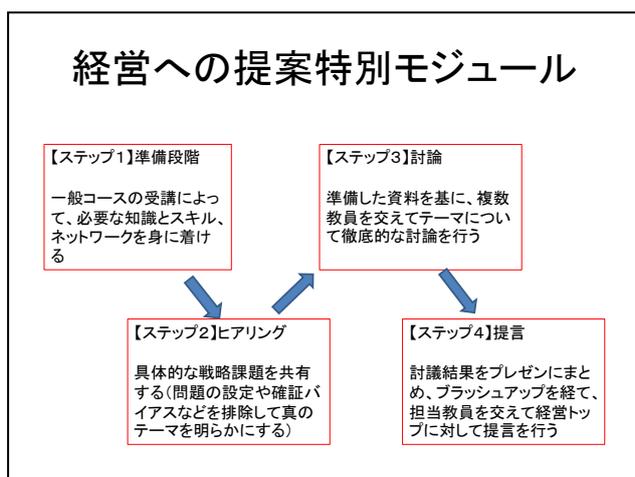


図3 経営への提案特別モジュールのステップ

☆ 2015年度日程（予定）は以下の通りです。

5月							6月							7月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2		1	2	3	4	5	6				1	2	3	4								1
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28	29		
31																			30	31							
9月							10月							11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30					27	28	29	30	31			

土曜A日程
 平日B日程
 合宿

図4 2015年度のスケジュール

☆また 2016 年 9 月ごろプログラムのフォローアップミーティング、アルムナイネットワーキングとプログラム習得知識とスキルについての活用アンケートを実施いたします（日程は別途調整）。これらの結果を反映させたフォローアップ評価報告書を 2016 年末までにお届けします（このようなスケジュールのため、受託事業期間は 2015 年度 5 月～2016 年度末までになります）。

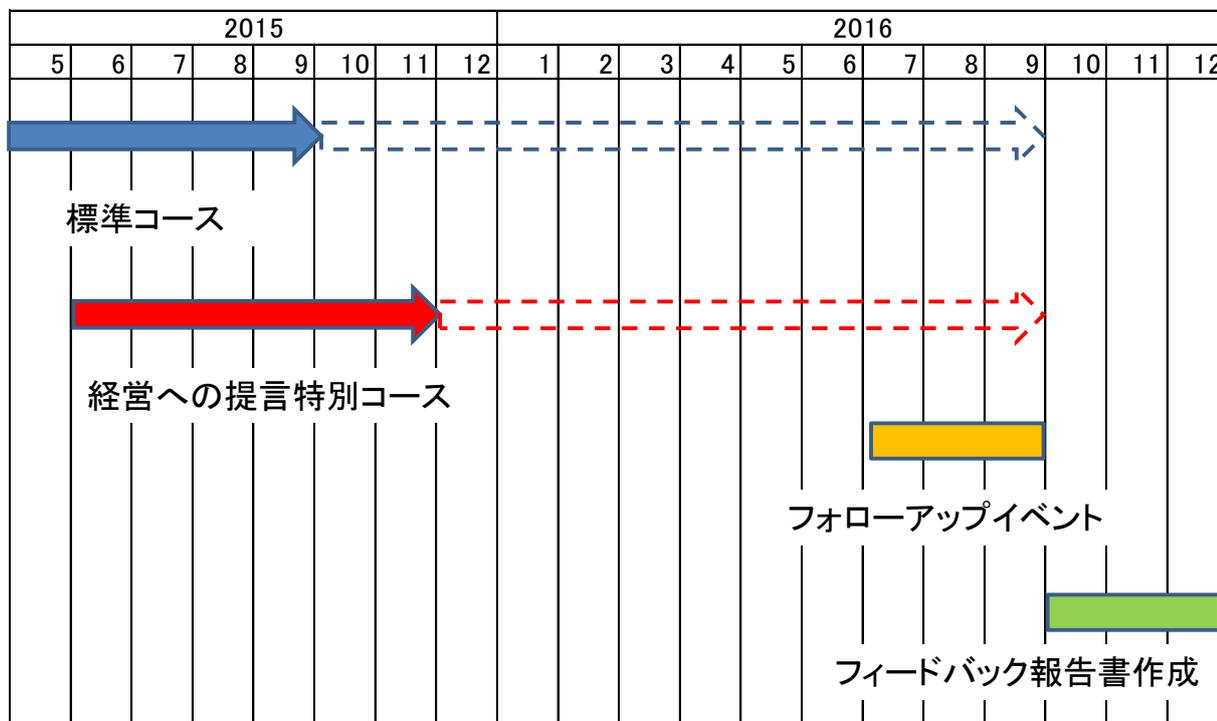


図5 プログラム受託事業期間のイベントの流れ

■ お申込み

①経営への戦略提案特別モジュール（戦略タスクフォースへの複数教員によるコンサルティング）を含む全コースの受講の場合

※東京大学政策ビジョン研究センターへの受託事業として実施します。詳細はご相談ください。

お問い合わせ先 office@wlab.rcast.u-tokyo.ac.jp

※受託金額については条件によりますが、標準的な場合は 300 万円（1 名参加）程度を想定しております。

②経営への戦略提案特別モジュールを含まない集合研修のみの受講の場合

※共催予定の財団法人日本生産性本部を介した受託事業として実施される予定です。

※参加費としては 70 万円となります（受講料は生産性本部が取り扱う予定です）。

③選抜方法

予定定員は 20 名です。受講者については選抜を行います。

④お申込時期

2015 年 1 月～4 月初旬（予定）